



ななつかの風～

畜産技術センターニュース

発行事務局

● 広島県立総合技術研究所
畜産技術センター技術支援部
〒727-0023

庄原市七塚町584番地

TEL 0824-74-0331

FAX 0824-74-1586

● 『飼料計算セミナー』開催（12/12）

畜産に関わる県職員を対象に、『飼料計算セミナー』が畜技センターで開催され、総勢20名が参加されました。

河野飼養技術副部長の解説で、基本的に知っておくべきこととして、飼料の特性、飼料の乾物含量の計算法などが解説されました。これに引き続き、畜技センターが開発した『飼葉桶』飼料計算ソフトを用い、飼料計算の実習を行いました。セミナー終了後も積極的に質問する職員もあり、非常に有意義な時間であったようです。

畜産農家の指導には、畜産技術者として不可欠な技術であり、継続して活用し、力量アップを期待します。



セミナー受講の様子

● 湯崎英彦広島県知事のお忍び？視察（12/25）



クリスマスの当日、10:00過ぎに、湯崎知事が畜技センターにおいてになりました。若い研究員の仕事ぶりを見たいとのことで、早速、研究部室に上がられました。

研究員のパソコンを覗き込みながら、『何を研究しているの？』『部室在室時間はどの程度？』『飼料イネはおもしろい』『この数字の意味は？』『皆さんの仕事は霜降りになる代わる広島牛独特の特徴を見つける最前線なんだね』『牛肉はこれからうま味じゃないかな』『受精卵の作出個数は？』『種雄牛はどのように選抜するの？』などと、

飼養技術研究部、育種繁殖研究部の研究員に気さくに声掛けをされ、若い研究員が多いことにも驚かされていました。

研究棟では、受精卵作成の行程を視察され、種雄牛舎では、全共に向けて活用される『3柴沖茂』を興味深くご覧になりました。さらに、フィステル装着牛での消化試験の様子、誕生直後の子牛、搾乳ロボットでの搾乳の様子を視察されました。バルクタンクの生乳をご覧になり、『搾りたてはおいしいんでしょうね』『はい、それはそれは』。

2時間程度の滞在でしたが、『興味深く、楽しかった』とのコメントがありました。

● 北部地域家畜防疫演習の開催！（12/11）

北部地域において、重大な動物感染症（鳥インフルエンザ）に関する防疫演習が、畜産技術センターを会場として開催されました。北部地域の総務事務所、農林水産事務所、畜産事務所、警察署、市役所や団体などの関係者60名弱が参加され、濃密な演習が行われました。

演習では、初動体制の構築に向けて、防護服の着用の仕方、車両交通規制、チェックポイント設定、車両消毒の方法とその後の確認誘導法、感染症発生現地での畜舎の消毒、感染鶏の殺処分のデモンストレーションなどが行われました。

平成26年末には、宮崎県、山口県でH5N8型高病原性鳥インフルエンザの発生もあり、迅速な対応によりウイルスの封じ込め（殺処分や感染防止対策）が行われたところです。

県内でもひとたび感染があれば、畜産被害は甚大であり、移動制限や搬出制限など、水も漏らさぬ対応が不可欠です。みなさんの危機感と緊張感をもった演習を頼もしく思いました。



演習で待機する参加者



車両チェックポイントの設置



車両タイヤの消毒液散布



車両消毒の実演

● 『飼料イネとTMRセンターに関する情報交換会』出席！

農研機構畜産草地研究所の主催で、平成26年12月1～2日、「国産飼料プロの成果を中心に」というテーマで情報交換会が開催されました。飼料イネWCS、飼料用米の生産と家畜への給与に関して、研究の成果情報、水田由来自給飼料を活用したTMR（混合飼料）センターの全国での取り組み状況について、14の話題提供や事例報告がありました。全国から、関係者が300人強参加し、当畜技センターからは末永研究員が参加しました。話題提供では、

- ①「飼料稲の生産、利用の現状と展望」山形大学農学部教授 吉田宣夫氏
- ②「飼料稲品種の現状と展望について」農研機構 作物研究所 石井卓郎氏
- ③「飼料用米の低コスト・多収栽培方法について」農研機構 中央農総研センター 吉永悟志氏
- ④「乳牛への飼料用米給与技術について」農研機構 畜産草地研究所 永西修氏
- ⑤「国産飼料増産に向けた取り組みについて」農林水産省 草地整備推進室 田中誠也氏
- ⑥「飼料用米の流通・加工技術について」農研機構 畜産草地研究所 浦川修司氏
- ⑦「肥育牛への飼料米給与技術について」農研機構 畜産草地研究所 樋口幹人氏

など、水田フル発揮に向けた耕畜連携の取り組みが紹介されました。

● 飼料イネ『たちすずか』の微細断収穫機の開発！

当技術センターは、これまで、飼料イネ『たちすずか』の家畜への給与における有用性を明らかにしてきました。

『たちすずか』は、草丈が長大であり、従来の収穫機では刈取が困難な局面があり、新たな収穫機開発が求められています。わたしたちは、近畿中国四国農研センター、(株)タカキタとの共同研究(平成25~27)の中で、切断長6mmでも問題なく収穫できる新たな収穫機の開発を継続しています。

昨年の10~12月に、県内各地で、試作機を搭載した収穫機(写真)を用い、収穫実証を行ってきました。本収穫機のヘッダ(刈取り部)はH27年1月には販売されることになっています。

微細断収穫のメリットは、①飼料イネ栽培圃場から貯蔵場所への搬送の際、密度が高まり搬送量が向上し、搬送コスト低減が可能、②貯蔵時の密度向上により、発酵品質の向上が可能、③微細断飼料イネの給与により摂取量が向上し、家畜の生産性向上が可能などです。

将来的には、TMRセンター近隣に微細断で収穫した飼料作物を貯蔵するバンカーサイロの設置、ロールラップサイレージへの応用、また、トウモロコシなど長大飼料作物の収穫ができる汎用性が期待されています。



『たちすずか』を収穫する試作ヘッダ搭載微細断収穫機



刈取り部ヘッダ(試作機)

● ヤギ放牧の社会実験の終了！

東部建設事務所からの要請を受け、9/2~10/31に、福山市駅家町の道路建設予定地(3,000m²)で、トカラヤギ6頭を終日放牧し除草の効果を検証する社会実験が無事に終了しました。

6頭のヤギによる放牧期間60日間における草の消失量は、容積として1,199 m³、乾物重量として828kgとなり、ヤギ1頭当たり乾物2.3kg/日の草を片付けてくれたことになりました(表)。すばらしい！

表 入牧から退牧における草量推定

	容積 (m ³)	乾物草量 (kg)
① 入牧時	1,707	1,179
② 放牧期間の増加量	340	235
③ 退牧時	848	586
①+②-③=摂取分	1,199	828

注) 容積の推定は画像解析による



ヤギ見学会の様子



入牧前の放牧地



退牧時の放牧

● 「たちすずか」の特性と活用法の紹介！

広島県が有用性を明らかにした「たちすずか」の活用法などが農研機構近畿中国四国農研センターのHPで、「たちすずか」普及連絡会というページに多数掲載されています。指導機関及び農家の方などに広く見ていただきたいので、広報ください。アドレスは、<http://www.naro.affrc.go.jp/org/warc/tachisuzuka/> です。

● 平成26年度畜技センター研究成果発表会を開催します！

成果発表会を次の要領で開催します。みなさんのお出でをお待ちしています。



平成26年度 広島県立総合技術研究所 畜産技術センター 研究成果発表会

入場無料
(事前申込不要)

- 1 日時 平成27年2月10日(火) 13:00~15:30
- 2 場所 みよしまちづくりセンター ペペラホール
(所在地:三次市十日市西六丁目10-45 電話:0824-64-0091)
- 3 テーマ 『広島県産和牛の生産振興と販売振興に向けて』
- 4 内容
 - (1) 基調講演(13:05~13:30)
演題 「2020広島県農林水産業チャレンジプラン」の実現に向けて
～広島県産和牛の生産振興と販売振興～
講師 広島県農林水産局畜産課 小川 寛大 氏
広島県農林水産局販売推進課 柳生 哲希 氏
 - (2) 成果発表(13:30~14:30)



【種雄牛「3柴沖茂」】
第10回全国和牛能力共進会 4席
次世代の種雄牛づくりに貢献します！

表題	内容	発表者	時間
広島県産和牛の産肉能力の現状と展望	これまでの育種改良の歴史と、産肉能力や血統構成の推移及び今後の育種改良について紹介します。	育種繁殖研究部 金ヶ江 崇	13:30 ～ 13:55
受精卵移植技術による広島県産和牛の生産振興	体外受精卵の生産・供給及び受胎率向上のための技術開発と、開発技術を活用した受精卵移植普及定着推進事業の成績について紹介します。	育種繁殖研究部 福本 豊	14:05 ～ 14:30

- (3) 総合討論(14:30~15:00)
- (4) ポスター発表(15:00~15:30)
平成25～26年度に実施した研究開発や技術支援の成果について、担当研究員が分かりやすく紹介します。
牛の給食センター「広酪TMRセンター」への技術支援
ヤギによる除草試験 ほか

5 問合せ
広島県立総合技術研究所
畜産技術センター技術支援部(担当:長尾(ながお), 沖山(おきやま))
〒727-0023 庄原市七塚町584

【TEL】0824-74-0332 , 【FAX】0824-74-1586

【e-mail】cgcgi.jutsu@pref.hiroshima.lg.jp , 【URL】<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/31/>



「みよしまちづくりセンター」まで
・西三次駅(最寄駅)から 徒歩で15分
・三次駅, 三次バスセンターから
徒歩で20分, 車で5分

編集後記：2015年が始まりました。新年となればなにもかもうまくいくと考えるのは、私だけではないでしょう。県民の幸せに邁進するのみ。・・・SS